



掌中幾句五百題
編二
全



掌中發句五百題

春秋菴白雄 著

春之部

元日 元日や萩ふき夜乃裏表 千川

門松 門を松芍薬写と乃雪空一 舟泉

蓬萊 蓬萊にいつ系宿能厨斗飽 岩翁

今朝春 朔夕の人もわつー 若さ能喜 宗因

立春 春立やいつまを利根の水境 横雀

若水

りのあやみよふまよひを

野坡

初日

ものときよふまよひを

観水

花春

彩りう子歌思をうきまのま

丹野母

萬歳

萬歳の宿を隣不明より子

荷分

初空

初空や虫篇の帰る叢代中

宗乙

着初

絲うきくはひ川馬衣きけうき

可悦

初夢

初夢やおのふて寐うる日の光

安室

齒泉

山紫よりうき白交る 竈の那

重五

子日

獨寐もよき宿をうき初子日

去来

小松引

引流る松や年く君の為

豊翠

若菜

うち群て若菜摘むる脛を

仙枝

七種

七種や松子とる子の振り若

湖月

齋

さきうきまも敷より白く若

五角

芹

あたの根芥摘く若う那

十春

梅

白梅の散るをうき初中

尚白

紅梅

あまの娘をうきまの書戸う那

杉風

柳

龐月

霞

掩夜

春月

雪解

残雪

雪間

旭二分柳の勃く句ひう那

三日月結糸色るる臙う那

白く雪霧たる影く出塚う家

臙秋のあまやあらん祖の勢

山の陽どちうく影く春の月

かこちうとて岩影るる雪を細か

教影や足輕断の残る雪

身振ひよ雪つるの雛子のみとる

荷兮

前川

沾蓮

沾洲

魯町

青雨

加生

轍士

春雪

糸遊

春雨

東風

陽炎

長閑

春日

永日

飛馬の丘より低く春の雪

雪ゆや憎き簾乃人の影

春雨やうそゆる平静く糸

以鴨や東風よはきての破惜

うけらや馬の眼のどろく

本家させものも心をぬ初痛

ちのめの日や若菜の木畑の小徳節

懺法の氣るる日やもあ

桃遠

乙州

紹雪

釣篇

傘下

杜國

正秀

許六

春野

妻のふ心ある人乃素顔は

有妻

春水

うつくしき鑑浮りり妻の水

舟泉

春海

えはりの幸山松やをるの海

芳川

春艸

むくはてなく控る妻の草

来山

若艸

りの草や躑躅に紙たる相の苗

風睡

蒲公英

蒲公英乃咲てうつくぬ日並外

普船

土筆

宵のふちるや土筆乃長短

闇指

落臺

さちちや落臺を越したる落の臺

子祐

薊

薊原や咲そよものハ鬼あさこ

荒雀

萱

何の氣もたぐぬよお境の萱う草

忠知

紫花

妻乃咲よ紫の花かゝ嵐哉

不悔

菊植

幾はくしの月およ控母の菊の苗

簫山

杉菜

玉降乃秋よ何さしる杉菜亦

全峰

蕨

早蕨や浅慶おとぬる妻の親

山歩

芦角

ゆのささいの角おは濱の芦

路通

萱

節ゆけそくたち雪ん朝やすき

嵐雪

二
麦青葉 系 麦也 泊 游 まの くの 登 ぎ あり ぶ 五 東

鶯 鶯 啼 や 赤 櫻 ぐ ぐ ぐ 小 日 影 なる 闇 指

鶯 欄 下 小 麦 鳥 と ま 歌 日 和 の 那 羽 色

駒 鳥 麗 なる 愛 の か いら の 野 駒 鳥 なる 卯 七

雉 子 う 泣 ぐ ぐ 麦 踏 科 と ぐ け 雉 子 言 水

鶉 雲 蒼 之 河 原 染 胡 也 志 の 芽 苑 一 髪

玄 鳥 不 毛 ぐ ぐ 埃 多 ぐ 門 や 毛 鳥 飛 怒 誰

雀 子 蠅 ぐ ぐ け 割 ぐ ぐ 雀 の 子 飼 け 河 瓢

鳥 巢 雀 の 巢 や ぐ ぐ 六 柄 ぐ ぐ 雀 子 飛 北 枝

麦 鶉 ひ ぐ 啼 鶉 乃 麦 の 穂 ぬ ぐ ぐ 諷 竹

雲 入 鳥 鳥 ぐ ぐ 餅 ぐ ぐ 割 ぐ ぐ 雀 子 其 角

帰 雁 帰 ぐ ぐ 雀 ぬ ぐ ぐ 雀 子 の 雛 存 丈 艸

几 巾 片 ぐ 波 や 船 ぐ ぐ 揚 ぐ ぐ 雀 子 如 體

猫 戀 文 ぐ ぐ 雀 と 水 飲 猫 の ぐ ぐ ね ぐ ぐ 川 支

初 午 ち ぐ 川 午 や 推 ぐ ぐ 雀 子 ち 鼓 全

彼 岸 戸 障 子 と ぬ ぐ ぐ 雀 子 彼 岸 哉 水 札

涅槃

孫るん像赤き表具も眼も立以 沾圃

出代

出るるも傘さけく夕あり免 汗六

藪

藪入や却く山ハわくる占也さそ 其角

如月

如月もや松乃苗喜る松もと 素牛

寒食

寒食の日旅人多きを以創つむ 藤包

冴返

雷守却くひく雪孤冴のへ於 去来

焼所

鳥啼て焼所の衣もるる良 乱糸

獨活

尋るるも古木り中の獨活の萌 松風

鹿落角

角落て落すくもささる小麻り如 蕉笠

椿

かき居るも萩孤椿の落るる音 玉角

若緑

若をこの雪孤育るもや若緑 玉芳

海棠

かひさう結花を満るる萩の月 洒堂

木瓜

草定袋や時を暖る木瓜の花 残芷

木芽

基る倦る度もささる木芽か 鷓白

指木

柔む付る見もや指木のきのかふ 左次

接穂

見なきものさみ紫より接不る如 嵐雪

余寒

彼岸より冬も一秋ふりよる

路通

蝶

てう飛や狙を喰む原野を

牛角

蛇

作向よふ事くもかくや蛇の足

土芳

蜂

蜂とまゝの本葉の牛や虫の糞

昌房

蛙

曉をむつり〜そまゝの啼し蛙

越人

田螺

小桶〜田のありる雨あ

尚白

墓

おもしろくもやう〜いゝら

曲翠

蟻

藤の起〜喰をたふす事

知足

種卸

たのほろを濁ちむる小川を

弁石

苗代

畦道や苗代対乃角大師

正秀

田舎

子を獨ちを田を耕鋤夫を

快室

畑打

ち〜く〜と畑のりや南風

好風

白魚

あ〜魚の白文白ひや秋の箸

之道

小鯨

水澄〜細の目白紙小鯨の香

重政

柳籠

ひあやその跡つるも柳を

遠水

彼岸櫻

西のよひ〜も揺も年々ある

杜若

初櫻

初さうくハ春のまき好あり

和及

初花

かきわひや初花より此の志

野水

茶摘

山畑の茶摘とうきん夕日か

重五

弥生

三月や冬の景色乃葉一本

文中

峯入

まの入や歌あめはまの法螺の口

土芳

上巳

弥生三日枕負ふ子供あひま

尚白

雛

世忘よ糸酒うまん 娘ひか

其角

曲水

世水や笠まきする 宿るうた

全

園雞

巡狩を余はよおむや雞合

全

潮干

んしや人潮干よ奥のよるそ

昌川

桃

壺源こ盃くまん 露乃花

北枝

海苔

人のあし取くまそ後や横り

杉峯

海雲

りあつまよ取定め勢海雲うね

菊齡

櫻

霞しく 碎の醒くる夕らそ

自悅

遅櫻

山深き青葉白ひるまそあ

吏朋

花

花の中下戸引てる 院うま

亀洞

梨花

まよ山や旁よぬれくる梨の花

所童

酴醾

つぎらと山吹花く夕の香うね

襟雪

岩榴

秘うらよ女松はこそふほりけ

尚白

春風

氷乃く流氷よこころ喜の風

所水

別霜

別霜よくそ巨燧を寒う片ふ

調柳

藤

山花の氣候をえたる枝垂れ

卯七

春暮

苜代よ案山子にぬれまよ花

乙由

行春

春もをやえんけくころまよ花

林紅

夏之部

更衣

塩奥の裏す日かりぬえ

嵐雪

袷

歩簾より肉を古風の袷をか

乙由

綿貫

けとぬさや柳のふのぬありく

小因

青簾

六位六位色あさく矢く青簾

嵐雪

淮佛

あし男母と生れくまの佛か

助叟

花御堂

寺くや海くくえゆる花御堂

九節

花摘

園か桶よ花摘糸の旁まこぬ

一有

夏

籠へ〜百日知らぬるるを

支考

纏夜

菴の秋も短く那らぬ少〜宛

嵐雪

葵祭

破顔又葵はあやう句ひの那

去来

夏夜

夏の秋や森入も口々ぬ酢の真

五重

子規

黒羽啼〜風らるるなる

利牛

鳩鴉

うひ〜ふ貝吹傍よかんと鳥

牛角

卯花

う花乳小乳母あつうき垣根に

卯七

牡丹

あうられの急と牡丹のほあうね

全峯

杜若

杜若活ん結葉のあうりうね

釣雪

罌粟

候風よ移ちあふけ〜の蒼うか

智月

紫陽花

紫陽花よきとき朝日夕日

乙由

葵

あう〜の候昇るる葵の那

戈磨

燕尾艸

燕尾艸も田子の秋あうり色危

如竹

百合

琴の音を醒けハゆりの月夜に

支考

茨

荒れぬき名とらひら〜を花

夙睡

菱

菱咲〜とらふあうり況む小あう

五朋

骨蓬

かきくみの二輪はよき水の那

一露

藻花

藻の気ハかみのの登り花雙が

胡及

萍

萍や侍のつるものてな

嵐雪

藻川

古城や堀又ちいさきも刈あひ

暮享

瞿麦

撫子やぬののりも只美し

斜影

夏菊

夏こころはあはれき扉うか

同

箒

箒木や女孺乃ち朽れ管

鷺水

豇豆

豇豆をひてハむらじのあれさけ

龜洞

釣鐘草

釣鐘草後よけし名を平

越人

茄子

客の敷茄子尋む星月秋

雪声

覆盆子

あふれ花を流し入る後盆子

杜旭

蘭花

あふれ花を流し入る後盆子

此節

芍薬

芍薬の花ふ念入るとん

時吟

葱

葱を何れを葱乃れん火歩

卜宅

麦

あふれし麦や平あみ垣り

巴流

葉撰

太鼓うりて焙炉をかき

央邦

麻

麻ゆゑ風節通以屑家うぬ

斜影

青嵐

うきさるまよふ葉をきりうまをり

青女

若葉

うしろのうしろをきりうまをり

舎良

茂

あつた流石女中癖のうらち

杜若

若楓

もの喰ふ葉筵うらちのうらち

嵐竹

桐花

夏はくろくをうらちのうらち

牛角

柿花

洗濯の衣よももももも

雪芝

棟

虹の根とかくは神中乃棟うら

鈍可

橘

まらちのれや奈良の都み土の臭

春洞

青梅

鈴なりふ小櫛ハ枇杷のゆらぎ

土芳

合歡

縹さけこふ花ゆらぎも書の花む

沾徳

笋

筍や竹ともも栗ふ大何うら

其角

若竹

うきさるまよふ葉をきりうまをり

素堂

夏月

馬之うらちのうらちのうらち

聴雪

夏山

夏山や菴と入るうらち

豊平

夏野

松毬のみうらちのうらち

ト枝

夏木立

橙や日よあめれきるる夏木立

圃指

雑夏

浮るや月一川流るのうきさか

不知

木下闇

山鳥もきくときさるの木下

千春

昼寐

真紙の夜盆子に添る昼寐

朱岫

松真

衣纏やきこしぬる松真

素堂

鱧

羽らぬえりも海洲の鱧

雪芝

川狩

狩りや秋川の人能名と呼

由之

鹿子

むきくし親ハん鹿の子

陽和

鹿茸

牛乳子不競つよ鹿茸

近之

火串

霞くや火串る目も山

嵐竹

螢

まじりや螢もあつる

孤山

夏虫

すきたての螢よしぬる夏虫

昌房

蝸牛

世ははるし道もあつる

友元

枝蛙

枝蛙何をあつる

嵐雪

蝙蝠

かをゆりし影あつる

桃隣

蚊

啞蝉乃啼勢指を

杉風

蚊火

山里の蚊ハ置中ノ又喰ひけ季

去来

蚊火

かやう火や結ひ分たる穢まを丸

百里

蠲

釣を先て好屋面白き 月夜小

言水

紙帳

鶏啼や柱ふまへる残帳ホ

素牛

端午

ゆつて狼遊生れ物と感ふらん

曙山

菖蒲

朝あやめをくらふ花つえ

三筒

職

むつうや末のともり結職布

嵐竹

粽

上童 くるやちきだのわきやう

西吟

競馬

見の以落や馬の競ひよ見え定に

氷巷

印地打

おりふ人よ南を平地の空際

嵐雪

入梅

病の染や蚊の毒出入毒晴

酒堂

五月雨

湖のあやさをりりみ月夜

去来

五月闇

み月やそ結やうる時 修子多

式之

田植

蛭の血も物うき神の田植小

漁人

早乙女

子乙女結んよりの夏の鏡うら

言水

早苗

子ハ婢父ハてくらえお苗ふら

利牛

雲峯 永舞 白雨 涼 清水 風薰 心太 簞

ハヤ子らの此險蹟を雨ののち 其角
六月に行ぬい居る其まう那 越人
ふるや山伏里よ入のうら子 万牛
琴の弾て老とらませよ夕をみ 智月
山道や茨の花ふりく清水 霞
洲の雲やいうゆる日ゆも風薫 松濤
血辨よ弱の滌よ也 ありゆふと 其角
本始りともあのかまらる 簞 馬寛

扇 團 蓮 荷葉 旋花 壺盧 帷子 夏衣

面白く前始喰ー 扇の那 伴自
心そくき碓ぬるれ 糸のち 許六
恥くーや蓮よんーまそ 長心 湖春
一糸浮て母よ若くー 蓮うね 素堂
馬士老の袖よ 壺魚くくる 飯森か 言水
夕鳥よやとくう 鳴る 曇るの那 前川
帷子よあまきま 待旭の南 文中
寝や借る 寝る 寝る かの衣 嵐弾

御杖	瓜	祭	祇園會	汗拭
河原と瘡すれまほふ所杖式	日の新やまよふ葉瓜のぬと表	豆の粉や袖の代ふ葉よめて里祭	舞よまほふ人の競も都うか	汗ぬらひ小きよもて沖津風
荷兮	巴山	許六	其角	嵐雪

秋之部

高燈籠	燈籠	鵲	銀河	七夕	初秋	立秋
人鬼ハ消えあすくの燈籠か	森こ家のの燈籠と衣よ月おか	鵲乃橋のこゝかき來る風の	行月のけしぬ影之己の川	星合や哥と吟と 鱒子入	まの秋や親まを形まし角力丸	宿備の山伏多ら男と初秋
言水	未泊	水因	如竹	山峯	采岳	居中

迎火

ひらひ火より狐の籠にさる

其口

迎鐘

抱き立て撞子ハ推そむひ子

春富

施餓鬼

石籠より芳き子柳の崩をり

文里

墓祭

孟宗盆や家のうへ墓系

卓袋

鬼祭

森乃多のうへくやうれ玉祭

去来

蓮飯

松の葉や包むる海と蓮の飯

支考

麻箸

おき人の敷をさう売し折まらり

全峯

嵐尾艸

嵐尾草の袂ふかふる泪の那

桃妖

生身鬼

うきうき死をを経くや生身鬼

百里

盆月

うちむる子縮み白ひや盆の月

李由

送火

送ややよう一人並し燃すとも

柳江

花火

花よりさう送るさその花火ハ

桂夕

踊

踊子の賑相さうは月夜う那

去留

相撲

相撲より並ふや秋乃角ありた

嵐雪

秋風

ちのち形や麻刈し端の秋の風

阿童

初嵐

初嵐風ちり小屋の荒よりり

濁子

暴 露 霧 稻妻 虫 蜻蛉 結翼 竈馬

温泉煙の地と這るの 形分る形
糸と云似てく男ののよ中の霧
於旁也糸を形す 物乃糸
古簾稻妻と女ををつまう形
葉畑や二葉の中結 虫の形
蜻蛉の顔をおろく 眼玉うか
木螺結啼て居る木の風格
曉結尾煙又凄まじいとくの家

東睦 孝和 毛鈍 立吟 尚白 知足 淵泉 掉哥

蛸 螭螂 松虫 鈴虫 秋蠅 秋蟬 秋蝶 蝨

をくをくを 蛸乃 依るの形
塙塙の糸と抱 赤む 稲糸ふ
赤むしやうんともいをぬ 葉茶碗
す虫也葉へてもうん 赤む
対文平也の糸をのむ 秋の蠅
うき事結遊へ糸をうり 秋の蝶
稻の花赤む 蝶の糸をい
啼くをたよ 蝶の糸を

立祖 千流 嵐雪 桂士 松吾 晚山 言水 翠白

蟋蟀

手よれの蟲もものもやさうりくは

智月

柳散

花の散るも中りくは軽き柳散

三風

相一葉

寂しき度と相の二葉も

湖水

木槿

多うけそ折るては木槿

杉風

雞頭

固崎の糸もさぬ糸雞頭

史邦

女郎花

女良糸松へくれくる地の志あり

呂風

薜

船白の時し結るも美しき

戈磨

秋海棠

秋妙は秋海棠の咲きき

涼菟

萩

箱戸極や子枝ふる萩の花

志賀

萩

身若秋ふ萩の咲く枕うか

呂風

野菊

此あくるも色入る野菊

百有

芙蓉

晨明のぬれて落る芙蓉の那

其汀

蓮実飛

蓮の実や飛て陸のありく向

猿雖

菖花

蛭別菖聖貝日和そ菖花

風化

葛

葛結葉のうらみ花ふ晴し亀

朱拙

芦穂

川船や港板かろる芦の花

龜汭

蘭

盗くる葉や乞喰乃簞乃下

嵐雪

芒

年くく虫古根よ多死すきか

俊似

尾花

吹おろくく吹のゆる咀の尾花は

松吾

番椒

夢喰ふ虫六あまもも座かり

胡及

荅野

州をくく刈く勢も荷ふ花の火

任口

草花

下々き荷簞のくちも中の花

左栞

芭蕉

秋風よ巻城のおまきくを世孤式

加生

葛

椽木よ津とあまき葛の命下うか

扇雪

蕎麦花

そまはあまき蕎麦の志が笑はる風う形

乙州

木綿

山畑をくくおろあまき木綿うか

松吟

西瓜

瓜瓜をくくおろあまき瓜且う形

素堂

瓢

家の棟や世をあまき瓢のち瓢

桃妖

零余子

新くも竹をくくおろあまき零余子う形

野徑

八朔

八朔よ酢のくくおろあまき鱈う那

許六

三月

約棧の本をくくおろあまき三月は月

去來

月

かきをくくおろあまき海の月夜う形

露川

待宵 名月 既望 后月 駒迎 放生會 初潮 稲花

待宵や翌日の命ハわすれ奉
名月や折もあふふと猶おとし
十六夜や有るど出る帰る人
系急る南部二葉や後の月
爪髪も旅のまゝあはし 駒迎
又三好も築へもせしよ放生會
初汐や巖山もふ家いらく川
禪のうらゝゝ流る度し 稲の花

羅人 轍土 許六 其栗 荷分 泥花 半残 芝柏

稲 早稲 晚稲 落穂 案山子 鳴子 引板 添水

稲乃おもはるるう船 稲の穂
早稲も穂よ出る大なる稲葉色
おこしくや赤く貯ふあくてう船
拾へまゝ肩よ落すのそらと
あけるまゝよ人待敷のかしうか
山圃小小松のうらや鳴子認
山添よ目の出の如く引板の認
象谷や流水の音や道ふらへ

土芳 林紅 路健 ト枝 正秀 峯雪 亀洞 普船

鳥驚

種物の儀やまくに鳥おと

涼菟

落水

雨乞し里もあらしき落し

古梵

落鱒

落りやまらうき世の暖家の靴

重頼

秋作物

黍の穂結る途したる氣色

越人

新酒

足あふる亭の酒の氣色

支考

鶉

帷子結りくし冷し鶉の意

史邦

鶺鴒

石らうく立せし鶺鴒の衣

言水

鶉

かみくもつも森影のうら

琴風

木啄

虫をくし樹や木啄の目もす

雨桐

鶺鴒

秋の目と鶺鴒のせうし

游刃

鳩

鳩吹や太山くき屋は

肅山

鹿

夢山をく紙麻のぬめ

其角

菌

菌狩見は多ぬ先そ面白

素堂

松茸

松茸や大きか茶うのあ

吾仲

初茸

初茸の香し降出は少ぬ

智子

柿

柿りに掃るる拙り

正秀

栗

團栗

椎

木実

重九

九日

菊

残菊

生象木とあさる山路

空々や浮も沈もなる川

艸穂と椎とさうて後走危

椎の売芳形山の木実うね

芝くりも秋ひ之危坐蒲付

りあまたる菊花うさひ危

つ色や他男衆く花さうり

菊ハ残る酒を走しき菴が

去角

其栗

丈中

嵐雪

逢雨

二水

曉龍

望水

擣衣

露時雨

秋雨

紅葉

秋夜

長夜

夜寒

鴈

や川舟と秋を顔するきぬ

ぬの敷や木の音竹谷の雨

秋の面晴て瓜喰ふ人もはし

か川敷て河簾とさるる

秋の夜を寐さぬ人のさう

くると目と見はれ秋をさ

松風と新酒とさるに秋

初雁やまのさうたき秋

擧白

丈中

野水

去角

許六

沾徳

支考

松吟

秋暮 行秋 秋雲 築 渡鳥 鉅 未枯

秋の暮る灯やと不さん之間よ来る
以秋を始る里と彌の釣る
秋の雲を始る
築も始る嵐を始る秋
山を始るやり
川音も始る河麻の秋
未も始るや

不炊 史邦 丈中 防風 丈中 涼菟 五峯

冬之部

初時雨 時雨 志卷 口切 爐開 炉 火桶

初時雨 何れもひ出れ此ゆ
あまの雨と時雨の後の
志巻 小傘持たし
口切 袴ひひきの織
爐開 糸糸の日と標
炉 木の葉たれ
火桶 老るぬげ

端氷 其角 商指 其角 嵐雪 一髪 露言

火鉢

板の戸や清く火鉢よりとらふ

揚水

巨燧

巨燧より霧を以て板板をうら

雪志

炭

炭より音之なる森耳をた

嵐藁

炭竈

炭竈やははすかゆる風めり

子冊

埋火

埋火や地をさるりき落の基

巴人

楯

楯の火ふ親子足さる院森を

去来

十月

十月や叶すことゆる庭のすこ

尚白

神無月

禪寺に妻の落葉や神を自

凡兆

神送

妻の名はあは清く神おくる

越人

神苗主

鶏の子は端籬さるり神の留

神寂

小春

初森して出まはるる花を

李由

達磨忌

達磨忌なきゆく菊は離れ

梅葉

十夜

牙初る鐘や十夜は場の月

杉風

御影講

袖も袖もおきれより所を

沾圃

御取越

松との庭もるる合せり所を

去来

蛭子講

生葉のかき世を志す夷儀

と

神迎 風をこし沙焼ぬしとや神む之 當覺

顔見世 ちかき移も四十さして八先登し 諷竹

吹草祭 掃きつめて吹草よ住連と祭哉 今

冬至 昼と昼秋のよと志まると冬をふ 乙州

風 ころしや里の子眠く此樂部を 尚白

冬水立 破とけや海士う方への冬水立 元兆

冬山 狼の吠う移う冬山 氷谷

冬日 冬の日乃りりく雪ふる斗ちり 諷竹

冬月 魚店や送らちあけく冬月 里東

冬夜 冬の夜の風吹や雀ともし 素風

冬籠 冬籠り移てあまの海ぬ下 彫蒙

冬構 櫓才又荒強まりん冬かきえ 雨染

寒椿 冬もはくよおぬ物とて冬椿 水因

枯菊 霜枯葉枝うりけれハ起那も 嵐雪

寒菊 かん葉の古荒眠く日利の雨 嵐竹

枯芒 日冬寂し徳酒の面の枯芒 一髪

水仙

水仙は岩あつらひ

一品

茶花

茶の花は世にも片

正秀

石落

石臼を磨きまじ

胡友

帰花

一輪は唯うまの

曲翠

茶山巷

山茶急や氷と

李農

枇杷

いつ咲ても津

尚白

冬罽

も枯すやあ

依之

木葉

おもひあ

沾徳

落葉

落葉あう

柵雪

枯柳

余のあふも

越人

蕎麦刈

やはうり

桐實

交時

むさ時や

漁弓

大根引

沙湊の大根

俊似

丁菜

一夜く

探丸

葱

ひよこ

百花

燕

脊戸乃善

依之

霜

どくおろよあうかもしりりおれひ

香舟

霜夜

戸もしりして猪うの志うもあきふ

尺中

霜柱

けりくくと敷居あききあうら

所童

千鳥

とき波ふうき桶うる千鳥ふ

冬柏

水鳥

水鳥のかひさあふなる嵐う那

倫女

野鴨

立野鴨と大追あへる境う申

斤本

鴛鴦

筏士のえんゆる方や巻うの中

水節

磔鶺鴒

椀木とくそと分たうあつうり

吏明

鶺鴒

鶺鴒家ハとれもそとえんこれ雪

祐補

鷹

熾燭よ夜多の眼乃ひくそくふ

木導

暖鳥

暖鳥いふ浮世とおひひそ免

柯上

木兔

くはくみ眠るあををけきまらり

半残

追鳥狩

まがたあそ追鳥狩の茨海を

史那

冬蠅

まき居くそと摺のそそきみん

嵐亭

蒼臍魚

あんうとせえゆわる射う申

莫陵

空鮭

あふうくかき鮭傳ふ嵐うふ

乙州

蛎

かきむくや貝八箇れも沙うら

其継

夜興

多夜又存夜忘る秋興う形

工齋

河豚

鮫汁又又本草能押うか

其角

鱈

え川守うや沖の釣場ハ二百尋

間指

生海胤

生海胤喰ハきし形きよの海傍邊

嵐雪

鯨

今此世のち物もろや鯨突

吉女

網代

川うやち物きるるに網代也

其継

梟

ふーつち以定ぬるおも一夜う物

暮年

寒

較洗ふ鯨能きもをぬる形

水導

寒中

能ホ猫のちもけさるや寒の中

浪化

寒声

寒声の末まのりく枯又危

加枝

寒垢離

寒垢離の功一とをくぬき事う

母風

胝

紙や雪ふくようは料あふ

吾東

藥喰

茶喰葱もぬ戒の即つうか

山夕

納豆

納豆う川音や孫弓市は月

除風

紙衣

油のしと時る又遠く残る

只吟

頭巾 毛純

衾 尚白

足袋 已雪

湯婆 正秀

初雪 利牛

雪 猿雖

霰 去来

雪吹 乙洲

霓 嵐雪

標 一井

檼 嘯花

氷柱 琴風

氷 許六

凍 氷英

神樂 柴座

寒念仏 鹿臺

鉢扣

もちまゝにあり秋茶釜のそとに

山峰

臘八

臘八やとち雑炊の善の味

惟然

御佛名

老らく此日とて念ふ一法仏名

去来

煤拂

煤拂の碓とてまゝ一雪のそと

嵐蕪

節季候

せきふや夕日と法なく儼持

浪化

師走

稚乃親ふし月此柿走る如

紋水

餅搗

もちつきやありかこる鶏の樹

嵐老

年忘

四の辰咄もあゝや年忘

曲翠

暦費

己う身此老とも忘るに暦うり

如髮

年市

日すくたよき此降り年此市

涼菟

豆糺

うの豆も戸のあり方此響る如

亀洞

年暮

為りくねとてまゝ一雪のそと

を角

衣配

ふか屑の末の子う持衣うり

山峯

岡見

さき交り一雪と都の岡見

九北

待春

まぢうく 椿つゝかゆる菜畑

亀洞

行歳

めくもや親ふの髪と隠る

越人

大年 同一人の亦邊年能ひく日也 仙花

江戸本石町十軒店 萬笈堂英平吉藏

其角發句集 二冊 嵐雪句集 二冊

蓼太句集 六冊

俳諧文集 蟹守大人輯 尚附言名の俳人の文珍輯 二冊

發句古今撰 同輯 附葛里連句集 三冊

俳諧新五百題 護物大人輯 二冊

新五百題 後編

同輯

二冊

發句類聚

蕁松大人重校

二冊

發句類題

雪中菴火人輯

二冊

發句五百題

白雄房撰

二冊

俳諧恋のまこと

葎雪庵北元大人輯

二冊

このまこととは季まのよ恋の初あるさふよりして
恋の初より集む

俳諧手焼灯

季まの書

二冊

袖のくさ

季ま懐中小本

一冊

俳諧四季名奇

懐中本落葉摺
季ま大成あり

一冊

俳諧季まの便覧

懐中一牧摺

萬葉用字格

春中上人撰
万葉集ののり

一冊

定家卿の形巻

一冊

今古の形を

喜井八穂大人輯折本

一冊

尚古の形を

山本明徳大人輯折本

一冊

対照の形を

若波の大人輯折本

一冊

音便撮要

喜望上人輯 懐中本

一冊

子鳥の跡

中臣親満大人輯

一冊

此のあと色紙矩尺の書とを少も臆然
かちりた人の書筆よりうづらひ

